

災害用備蓄食料の余剰分を寄付！



災害用備蓄食料 エンジンが寄贈

浜松市社協

LPガス販売のエンジン（浜松市中央区）は5日、災害用備蓄食料を市社会福祉協議会（同区）に寄贈した。賞味期限が

近づき、防災訓練などでの炊き出しでは消費しきれずに廃棄見込みだったレトルト食品やパンの缶詰など、計195食を贈った。市社協は窓口や民生委員らを通じ、生活困窮者の支援に活用する。

贈呈式で同社の藤田源右衛門社長（写真右）が市社協の山下文彦常務理事に目録を手渡し「備蓄食料の処分に困っている会社は多いと思う。寄付による活用を広めたい」と話した。

防災訓練等で毎年備蓄している食料の余剰分を、市社会福祉協議会を通して寄付。生活に苦む人へのお役立ちとして、備蓄食料を約195食分を送りました。食料備蓄する企業が増える中、余剰分をただ処分するのではなく、支援に繋がるような取り組みを積極的に広げていきたいと思ひます！

令和6年(2024年)3月8日(金) 静岡新聞

